

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度 策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月15日実施)	総合評価 (3月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①工業に関する専門教科・科目を中心に、目的別学習活動コンソーシアムの推進を図り、産業界等との連携による実践的・体験的学習を推進する。</p> <p>②グローバルコミュニケーション能力育成を通し、世界の伝統や歴史を学びながら、日本の工業技術について興味・関心を高める。</p> <p>③創造的な問題解決力を育成するため、探究的な学習プログラムの充実を図り、生徒が主体となって、問題解決に取り組む姿勢を育成する。</p>	<p>①神工 STEAM 教育の実践・推進に向け、新教育課程に即した指導と評価の計画の作成を行うと共に、大学等や企業との連携の充実を図る。</p> <p>②英語教育として、各教科においてグローバル教育を意識した取組を展開し、生徒の視野を広げる。</p> <p>③企業や大学と連携し、課題発見・解決の取組のフィードバックを通し、指導方法のさらなる充実を図る。</p>	<p>①目的別学習活動コンソーシアムの推進に向け連携する企業等と目指す人材育成のための支援内容・カリキュラムの策定及び充実を進める。</p> <p>②1・2年生に対する実用英語技能検定試験の全員受験を実施し、本校の英語力を把握する。また、英語力の向上のために教科内外の指導法を工夫する。</p> <p>③2 学年全体で ReBaLe を用いた問題発見・解決プロセスを取り入れた授業を展開する。</p>	<p>①神工 STEAM 教育の組織図を作成し、教員研修が実施できたか。また、目的別学習活動コンソーシアムの充実が図れたか。</p> <p>②グローバル教育について、校内で取り組みができたか。また、教員研修が実施できたか。</p> <p>③課題研究の内容に課題の発見のしかたや解決プロセスについての学習を組み込むことができたか。</p>	<p>①STEAM 教育を発展させる高等学校 DX 加速化推進事業の組織図を作成し、理数科目2科目の新設を図れた。</p> <p>②英検合格に向けて英語力の向上に努めている。</p> <p>③ReBaLe の校内マニュアルの更新を行い、より授業を円滑に進める手順を整理することができた。</p>	<p>①コンソーシアムまたは類似の授業を全ての小学科で実施したので、内容の拡充が今後の課題である。</p> <p>②今年度の受験結果がまとまったところで改善策を検討する。</p> <p>③更新したマニュアルを使用し不具合などの確認を行い、さらなる改善に取り組む。</p>	<p>募集定員を満たすのは、御校の取り組みが素晴らしいからだと思います。いつも資料送付ありがとうございます。教育改善に協力できることがありましたらご相談ください。今後とも宜しくお願い致します。</p> <p>神工祭での課題研究の電気科中間発表会において、生徒の皆さん、これまで学校で学んできた知識・技能を発展させ、それぞれチャレンジな課題に挑んでいることがよくわかるものでした。また、神工祭の展示を見て回りましたが、どの学科のものも技術レベルの高さを感じられる展示に驚きました。</p>	<p>①DX 加速化推進事業の一環として、理数科目2科目の新設を行い、令和7年度入学生から実施することとした。コンソーシアムまたは類似の授業を全ての小学科で実施できた。</p> <p>②2級の1次試験合格者は、昨年度・一昨年度よりも増えたが、3級の1次試験合格者は昨年度・一昨年度よりも減ってしまった。本校生徒の英語力の底上げが必要であると感じる。</p> <p>③更新したマニュアルで行った授業を通じて、円滑に授業を展開することができた。また3年次の課題研究への引継ぎを行うことができた。</p>	<p>①さらなる DX 加速化推進事業の充実のため、情報をどのように学習させるか、学校全体で検討する。</p> <p>②英検の受験は、あくまでも本校生徒の英語力の定点観測が目的である。なので、英検合格のための補習を実施するというよりは、本校の英語教育自体の見直し(カリキュラムや習熟度別授業など)が必要であると考えられる。</p> <p>③改善が必要な手順や文章を整理し、連携先の大学・企業にフィードバックを行い、継続的に検証と改善に取り組む。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①多様性を理解し、来たる国際社会の一員として活躍できるリーダーシップや協働意識を養い、生徒の人間性の育成を図る。</p>	<p>①自他の違いを理解し他人を尊重できる人格・社会生活の考え方を育てる。</p> <p>①学習活動や学校生活等で仲間を尊重し合い、安心安全な学校生活を保障できるよう、個に応じた支援体制を充実させる。</p>	<p>①専門機関と連携し、個に合った教育環境の整備を目指す。</p> <p>①3年間を見通した講演会の配置を行う。</p> <p>①計画的な基本的な生活習慣指導の実践を行う。</p>	<p>①専門機関と連携して適切な支援を提供することができたか。</p> <p>①効果的に講演会を実施できたか。</p> <p>①登校指導・服装指導を計画的かつ継続して実施できたか。</p>	<p>①サポートドックによるアンケートなどからSCと連携して、適切な支援策を提案することができた。</p> <p>①各学年に合わせた講演実施ができた。</p> <p>①学期始めに立ち番を実施し、声掛けして服装指導を実施できた。</p>	<p>①アンケートのみならず相談しやすい機会や環境、体制を整備することが今後の課題である。</p> <p>①時代や生徒に合わせて内容の検討を今後も継続して実施する。</p> <p>①職員の統一見解を徹底し、一貫した指導を目指す。</p>	<p>生徒一人ひとりに向き合った指導でとても良い思いますがやはり全ての生徒には難しいと思います。かながわ子どもサポートドックの実施はじめ生徒支援においてきめの細かい取組をされていると存じます。スクールカウンセラー等との連携をふくめ今後さらなる相談体制および予防・早期発見的な支援の充実に向かわれているものと拝察いたします。</p>	<p>①サポートドックによるアンケートから生徒たちの困りごとを早期発見し、速やかに連携や支援することができた。</p> <p>①講演会のアンケート結果から「非常に役に立った」、「新たな学びがあった」という声が多く、良い講演会が実施できた。</p> <p>①生徒会役員と制服に関する規則改定において協議し、生徒の意見を取り入れることができた。</p>	<p>①生徒が相談できる窓口の周知や多くの教員の見守りにより多角的な支援ができる体制を作る。</p> <p>①生徒の成長を考えて講演会の内容や講演者の検討をしていく。</p> <p>①目安箱を通じて教員と生徒との協議を増やし、生徒が主体となって学校づくりや環境整備に係る機会を増やす必要がある。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度 策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月15日実施)	総合評価(3月6日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<p>①生徒のキャリア発達を、正しい勤労観や職業観に基づく進学する意味や就職する意味について、十分に理解した段階まで引き上げる。</p> <p>②保護者に対して、本校が定義している正しい勤労観や職業観について、理解してもらおうようにする。</p>	<p>①生徒のキャリア発達の成長を促す。</p> <p>②生徒のキャリア発達の醸成を家庭からも促す体制を整えて、家庭と学校が連携して生徒のキャリア発達を支援していけるようにする。</p> <p>③小中学校から引き継いだキャリアパスポートについて、効果的な活用方法を検討する。</p>	<p>①1・2年生向けに3回の進路セミナー、3年生向けハローワーク主催の就職ガイダンスを実施する。</p> <p>①校外学習や施設見学を本校の特色に合った場所にする。</p> <p>②保護者対象の進路セミナーを定着させる。</p> <p>③本校独自のキャリアパスポートへ移行する方法の検討</p>	<p>①1・2年生向け進路セミナーが実施できたか。また3年生に対して就職ガイダンスを実施できたか。</p> <p>①校外学習や施設見学の検討・変更できたか。</p> <p>②保護者対象進路セミナーを実施できたか。</p> <p>③本校独自のキャリアパスポートへスムーズに移行できたか。</p>	<p>①1・2年生向け進路セミナーを7月に計画通り実施することができた。また、3年生向け就職ガイダンスを、ハローワークの上部組織である厚生労働省と連携して実施することができた。</p> <p>①2年校外学習を、国際教育に特化した場所への実施とした。</p> <p>②保護者対象進路セミナーを実施することができた。</p> <p>③本校独自のキャリアパスポートへ移行する方法を検討した。</p>	<p>①1・2年生については今後も計画通り実施する。3年生についてはさらなる検討を進める。</p> <p>②1年生の校外学習についても、本校の特色に沿った場所への実施となるように検討する。</p> <p>③今後は1年生～3年生保護者対象の企業見学等を計画する必要がある。</p> <p>④今後も引き続き、本校独自のキャリアパスポートへの移行方法を検討する必要がある。</p>	<p>進路実績が充実している。</p> <p>中学校の教育活動へ取り入れられる学校方針や取組を参考にさせて頂いています。</p> <p>朝から部活動(野球部?)の生徒さんが地域のゴミ拾いをしてくれている姿を見て、学校は地域を大切にしていることが伝わってきます。もちろん、自主的に取り組んでいる生徒自身の気持ちが最大の要因だと思います。ありがとうございます。</p>	<p>①1・2年生向け年3回の進路セミナーを実施できた。</p> <p>また、3年生向け就職ガイダンスをハローワーク横浜及び厚生労働省と連携して実施することができた。</p> <p>①2年生の校外学習については、来年度以降も本校の国際教育に特化した場所として、TGG(Tokyo Global Gateway)で行う予定である。</p> <p>②保護者対象進路セミナーを3月に実施する事ができた。昨年度よりも8社多い20社を招いて実施した。</p> <p>③中学校までのキャリアパスポートを本校独自のキャリアパスポートに移行する方法を検討した。</p>	<p>①就職ガイダンスの他に、進学ガイダンス(本校の場合は、一般選抜での受験者はあまりないので、まずは、学校推薦型選抜・総合型選抜のガイダンスを検討する)を企画する必要あると考えられる。</p> <p>①1年生の校外学習についても、本校の特色に沿った場所への校外学習となるように検討する必要がある。</p> <p>②今後は、保護者対象の企業見学会等も実施する必要があると考えられる。</p> <p>③キャリアパスポートについては、今後も引き続きその移行方法や運用方法を検討する必要がある。</p>
4 地域等との協働	<p>①各種連携や地域との協働を通じた生徒の創造的な問題解決力を養う。</p> <p>②専門高校の教育内容や理工系進路における他学科に対する有意性を地域や中学生に広報する。</p>	<p>①目的別学習活動コンソーシアム等を活かした地域連携型課題研究の実施。</p> <p>②中学生とその保護者に向けて本校の取組みを発信し、専門高校のイメージ向上を図る。</p>	<p>①「かながわP-TECH」や「宝塚大学連携事業」等を活用した課題研究の実施。</p> <p>②YouTubやSNSを活用し、中学生や地域に本校の魅力を伝える。</p>	<p>①地域連携型課題研究の実施ができたか。</p> <p>②SNSの更新が円滑にできる環境を整備することができたか。</p>	<p>①「かながわP-TECH」や「宝塚大学連携事業」等を活用した課題研究を実施できた。</p> <p>②YouTubeやSNSでの広報をはじめ、今年度も中学女子限定の体験教室など特色ある企画を実施できた。</p>	<p>①中身の充実を図る必要がある。</p> <p>②教員補助者の方にもSNSの更新作業をサポートしてもらい、教員の業務負担を減らす工夫をする。</p>	<p>中学生女子限定の体験教室の企画を興味深く拝見しました。</p> <p>御校の発展のみならず社会・地域課題への貢献という点でも意義ある取組と存じます。</p> <p>御校の積極的な取組に敬意を表しますとともに今後さらなる発展を期待しております。</p>	<p>①「かながわP-TECH コンソーシアム」「次世代モビリティエンジニア育成コンソーシアム」や「宝塚大学高大連携事業」を活用した地域連携型の課題研究を実施する事ができた。</p> <p>②引き続き、YoutubeやSNSでの情報発信をしていく。また女子限定の体験講座のアンケートでは「進路選択の参考になった」という回答を得た。</p>	<p>①今後は、他の小学科への広がり、さらなる内容の充実を図る必要がある。</p> <p>②より広範な周知と支援を得るため、文部科学省の女子向け企画である「理工チャレンジ」との連携を検討していく。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①専門高校として必要な課題解決力や協働的な学びの推進のために校内学習環境の充実を図る。</p> <p>②生徒と向き合う時間を確保するために、効率的な学校運営と業務の最適化を図る。</p>	<p>①ICT機器を校内どこでも利用できる環境を構築しSTEAM教育推進に貢献する。</p> <p>②会計担当職員がその伝票処理に費やす時間は計り知れない。担当職員の業務負担を改善する。</p>	<p>①生徒用BYOD端末の導入を整備しofficeソフトの利用やICT機器活用のサポートを行う。</p> <p>②起票から決裁後の伝票処理にかけてその流れを標準化し簡素化する。</p>	<p>①ICT機器使用に関する研修を適宜行っているか。</p> <p>②会計業務を業務アシスタントによる代行業務として簡素化することができたか。</p>	<p>①ICT機器使用に関する全体研修、または個別での対応を行い、全職員がICT機器の使用に関する技術を身につけた。</p> <p>②入力及び伝票チェックについて業務アシスタントを活用することで修正処理業務を削減し、教員の業務負担軽減を達成できた。</p>	<p>①職員移動に伴うICT機器の入れ替え、OSのアップデート対応など機材の管理、円滑迅速な対応が今後望まれる。</p> <p>②新たに今年度からスタートしたシステムのため、業務効率化が見込まれる部分は更なる改善を図り対応していきたい。</p>	<p>教室や実習室などの施設について必要な設備が整備・充実している。</p> <p>一部の教職員への負担集中については、質のよい教育を継続する上で重要だと思いますので、報告にあるとおり分散化し、教職員の適材適所を考慮しながらご対応がよいと思います。</p> <p>いつもありがとうございます。</p>	<p>①校内ICT機器の充実、生徒用端末導入に関する整備を行いSTEAM教育推進に向け貢献できた。校内ICT機器の保守管理に関して円滑な対応ができるよう今後検討したい。</p> <p>②会計担当職員の伝票処理に係る業務作業負担を標準化し改善することができた。次年度以降、担当する職員が変わっても継続して対応できる体制を構築したい。</p>	<p>①消耗品等の台帳管理、在庫管理を行いICT機器の保守管理に努める。</p> <p>②会計担当職員の定期的な研修等を実施することに加え、フォーマット等の改善も検討し更なる業務効率アップを目指す。</p>